

## 〈2021年度長野大学研究助成金による研究報告〉

### (準備研究)

# 伝統産業の観光資源化における地域間比較調査

古 平 浩\* 井 上 典 子\*\*

Hiroshi KODAIRA

Noriko INOUE

## 1 研究実績の概要

### ①研究目的

本研究の学術的背景としては、地場に基盤を置き、クラフト型の産業を含む小規模事業者のネットワークが、イタリア北東部・中部において、いわゆる「産業地区」を成立させることを示したピオリ、セーブル(1993)がある。ここで明らかにされた地域経済構造は、大規模生産型の経済構造に対するオルタナティブとして、地域経済において重要な研究テーマとなってきた。北イタリアでは、これらの企業群はさらに産業連関を進め、ネットワークに観光系企業を加えることで「生産地」自体を観光地へと転換する動きへと展開し、現状では、ワインやチーズの生産地がワイナリー観光や美食観光の対象として重要な役割を担う状況がある。

こうした生産品—生産地間の関係は、生産品の質と生産地の自然や景観との関係を強化しながら、地域自体のブランド化を進める動きとして理解することができる。つまりこうした産業地区は、観光を含めた文化地区へと展開する新たな方向として確認される。類似した事例は、国内においても認められ、特に、京都の事例では、伝統産業が集積する地域が生産品の魅力と地域の魅力を連動させ、十分に観光地として発展する可能性があることを証明している。

以上から、生産、加工、観光等に関わる小規模事業者の連携や伝統産品、加えて町並みや農村の魅力は連動し、地域自体のブランド化を促進していると推定される。

### ②研究方法

本研究においては、社会学的調査手法に基づき、

伝統産業を支える技術者や観光事業者へのインタビュー調査を通じて、伝統産業の歴史とその形成過程において把握するとともに、構築された技術集積およびこれを支える人的ネットワークの現状把握を試みた。また産業立地に関しては、伝統産業の集積、立地の範囲に関する調査を行った。

なお、今年度もコロナ禍の影響を大きく受け、京都市に限定して現地調査を試みたが、度々発出される緊急事態宣言等により、十分な現地調査を実施することが適わなかった。

### ③研究成果

本研究で明らかにされた地域経済構造は、大規模生産消費型の経済構造に対するオルタナティブとして、日本では、京都市や金沢市等に代表される伝統産業を基盤として発展した歴史都市等の地域経済を再編していく上で、重要な研究テーマとなっている。ピオリ、セーブルを背景に伝統産業と地域経済および都市政策の関係に着目したものとしては、佐々木雅幸による一連の研究がある<sup>1)</sup>。我々の研究主題は創造都市に関連するものではないが、歴史都市の地域経済における伝統産業の重要性を再確認させた点において参考となった。また、伝統工芸と地域づくりに関して経営学の観点から行われた先行研究には、事業経営と技術継承に関するものとして磯野誠<sup>2)</sup>、同じく事業経営形態の観点から金沢市の金箔産業を分析した五味一成<sup>3)</sup>等がある。加えて、小規模店舗等が生み出す外部性としての都市景観や都市イメージに着目し、これが観光まちづくり等に有効性を持つことを示した石原武政による先行研究がある<sup>4)</sup>。ここでは、小売業が

生み出す町並みはまちづくりの素材となり、これが都市の魅力を生み出し都市発展を引き出す可能性が論じられている。さらに、イタリアの職人企業や小規模事業者の商店が生み出す都市景観と観光まちづくりとの関係を都市工学の観点から論じたものとして宗田好史がある<sup>5)</sup>。石原や宗田のアプローチは、伝統産業や職人企業がそれ自体だけでなく工房や小売店が生み出す町並等と一体となって、地域に付加価値をもたらすことを示したものである。

以上のように、伝統産業を中心に、その加工やデザイン、観光等に関わる小規模事業者の連携、加えて町並みが連動し、これが地域自体の観光資源化を促進しているとの仮説は散見される。しかし、伝統産業が観光資源化に影響を与えるとすれば、地域は伝統産業の維持を検討せねばならない。伝統産業を維持し地域経営に活用するためには、伝統産業のオーセンティシティを保証した上で、(1)伝統的な技術集積とその地域資源化の可能性、(2)伝統産業の地域ブランド化に対する効果と影響、(3)伝統産業の持続可能性に基づく地域政策の立案が必要である。

また、制度資本の観点からは、当該伝統産業の構築

を支えた法律、制度、資金関係とともに、公共セクターと民間企業との協働のあり方について検討を行う予定であったが、コロナ禍で実施できなかったこともあり、今後においては、外部資金の獲得を視野に、これまでの調査を深化させたいと考える。

## 注

- 1) 石原武政『小売業の外部性とまちづくり』有斐閣、2006.
- 2) 宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業戦略』学芸出版社、2000.
- 3) 佐々木雅幸「産業戦略としての創造都市・京都」日本地域開発センター地域開発(623), 74-78, 2018.
- 4) 磯野誠「伝統工芸産業を構成する事業者の経営とその技術継承(特集地域のサステナビリティ)」地域デザイン学会誌(17), 213-231, 2021.
- 5) 五味一成「伝統工芸産業におけるファミリービジネスのイノベーション経営—金箔産業から工業製品製造企業へ—」北陸大学紀要(49), 15-36, 2020.

## 研究発表(令和3年度の研究成果)

(学会発表) 計( 1 )件

| 発表者名     | 発表標題              |                                   |  |
|----------|-------------------|-----------------------------------|--|
| 古平浩      | 持続可能な伝統産業と産業観光の視座 |                                   |  |
| 学会等名     | 発表年月日             | 発表場所                              |  |
| 日本地域政策学会 | 令和4年6月26日         | 第21回全国研究【宮城】大会<br>石巻専修大学(オンライン開催) |  |